私の行きつけ

新・赤ちょうちん

30

本枯中華そば 魚雷

都営三田線春日駅徒歩1分

入口上には一際目に付く魚雷のオブジェが

【文京・電工・本多健一通信員】文京区小石川1丁目源覚寺こんにゃくえんま前、Tの字路角の黄色いマンションの1階で私は電工を営んでいます。その隣にある飲食店を紹介します。

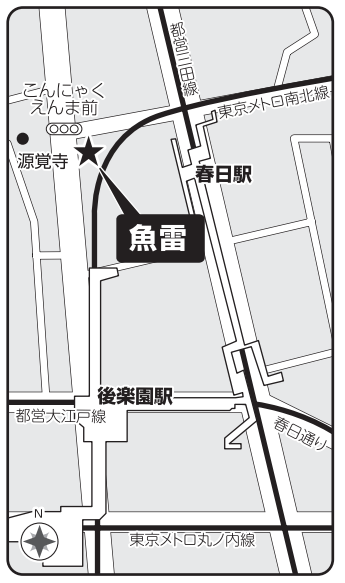
入口にある赤い囲いの上に、一際目につくミサイルとも爆弾とも見えるいぶし銀に輝くオブジェが乗っかっていて、誰もがスマホを構えたくなる物体。その名は魚雷。その正体は、店舗の名に由来します。

主なメニューは、サイフォン式で魚介系エキスをブレンドして抽出した本枯れ節中華。黒っぽいストレート麺で豚チャーシュー、鶏チャーシューやメンマ、きくらげ等のトッピング3種類をお好みで選ぶことができます。また、とろみのあるパンチの効いた魚介系つけだれが自慢のつけ麺も大・中・小サイズがあり、お勧め。その他、稲庭風中華そばや黒胡椒とねぎの効果でピリ辛な王様中華そば。夏限定では、冷やし稲庭うどん風つけ麺もあります。

こじんまりした店内で私がよく食べているのは、つけ麺プラス韓国のりが香ばしいのりめしを頼んでつけ麺のチャーシューをおかずにして舌鼓を打ち、残りのタレはスープにしてもらって飲みます。

開店してはや10年以上になりますが、テレビ局や地域のケーブル放送も取材に訪れる人気店です。ぜひ一度、食べてみてください。

《メニュー》
本枯中華そば　790円
特選中華そば　1000円
稲庭中華そば　850円
つけ麺（中）　950円
営業時間　11時～15時、18時～23時／水曜定休
文京区小石川1－8－6　アルシオン文京小石川102
☎03－5842－9833



サイフォン式で抽出
本枯れ節中華を食べてみて

ヤングさま！

市民権

2017年10月25日、サウジアラビアの首都リヤドで開催されていた技術会議で衝撃的発表がなされた。人型AIロボットである「ソフィア」がサウジアラビアの市民権を獲得したというのだ。

これ以前に、ジョークであるとしつつも「人類を滅ぼす」と発言して物議をかもしたことがあるソフィア。この会議のスピーチでは、「心配しないで。親切にしてくれるなら、私もあなたに親切にする」と語った。だまだ活動とは言えない！」と檄を飛ばしている親父さんの姿を目の当たりにして、コリャ大変な集まりに顔出してしまったと緊張したものです。酒が進むにつれ、色々な悩みを聞いていただき、「困ったことがあれば何でも相談に来てくれ。俺がなんとかする」。その言葉は何よりも心強く、勇気が湧きました。

常に真剣で熱く厳しい口調で語りながらも、仲間に慕われている親父さん。僕もいつか「仲間」と共にそんな関係を作りたいと思っています。無理なさらず身体には気を付けて、いつまでも元気でいてください。

北支部北東分会〝ガバゴンこと石川義勝さま〟

また酒を酌み交わし語れる時を楽しみにしております。心より感謝と尊敬を込めて。

敬具　（江東）

忘れえぬこと

親父さんからもらった勇気が湧いた言葉

ビルメンテナンス
天沼　昭博

拝啓　親愛なるガバゴンさま。本格的な寒さ身にしむ頃ですが、お変わりなく元気でお過ごしですか。

「忘れえぬこと」と聞いて真っ先に頭に浮かべるのは、精力的な土建活動でいぶし銀の活躍を見せる親父さんとの出会いです。

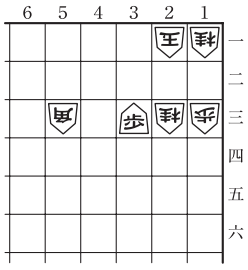
活動を始めた5年前、何かしらの結果を残そうとただがむしゃらに日々を送っていました。一生懸命やればやる程に（これで本当に良かったのか?）と悩んだ時期でもあり、誰かの後押しを心のどこかで求めていたようにも思います。

そんな折、仲間が誘ってくれた『たらく会』。人が集まり、意気揚々とした目標を語る仲間に「そんなことじゃまだまだ」と叱咤激励を受けました。

番組中、バスの案内所での聞き込みでは、昨年まで通っていたバスが現在は廃止されたとの情報をあちこちで聞かされ、4日間で60㎞歩くはめに。鉄道のローカル線ではコロナ禍で利用客が減り、廃止を検討しているところがあるというが、バス路線は大きな話題にもならずに廃止が決定されているのだろうか。

詰将棋

持駒　飛　飛　桂



チョット一服（1051）

テレビ東京で放送された「ローカル路線バス乗り継ぎの旅Z」第18弾は、3泊4日で石川県の輪島から静岡県の御前崎をめざした。結果は静岡県の清水駅までたどり着いたが、その先の静岡駅行きの最終バスを逃してしまいゴール失敗となった。

本ほん

樹木たちの知られざる生活

著＝ペーター・ヴォールレーベン
訳＝長谷川圭

樹木の持つ驚くべき能力と社会性

【本部・中村哲郎記】筆者はドイツ人で、森林管理の仕事をする中で森の声を聴いたそうだ。この本では、営林署や個人経営での森林管理の経験と、科学的な研究結果などを組み合わせて、樹木や森林の機能をわかりやすく解説している。

友情、社会福祉、愛の営み、教育など、人間と同様に樹木も森林の中でネットワークをつくり、会話し、多様な植物や動物と関係しあいながら生きている。人間は言葉を使ってコミュニケーションするが、樹木も芳香物質でコミュニケーションをとるという。アカシアの木は草食動物に葉を食べられると警戒ガスを発散し、まわりの木にも伝達、有害物質を準備し、食べられないようにする。

ドイツの森では、400年前に切り倒されたブナの木の切り株が地中で近くの樹木の根から栄養分をもらい生き続けているという。まさにご近所同士の助けあいのようなネットワークで、孤立した切り株は完全に朽ち果ててしまう。

人間のコミュニケーションや助け合いネットワークづくりも同じだと感じた。ふだんそんなことは考えないで、森林を散策し、キャンプなどアウトドアに興じているが、改めて樹木や森が生きていることを実感しながら自然と接すると違った景色が見えるだろう。

今、地球全体の生命の共存を考えないといけないときに来ている。地球規模で起こる異常気象や環境破壊問題が深刻化し、SDGsに関心が集まるなか、経済優先ではなく、自然を守り、どう共存していくのか、自分にできることは何かを考えさせられる1冊だった。（早川書房・770円税込）